

平成30年度 第2回 会津図書館協議会 会議録

日 時：平成31年3月25日（月）13：30～15：20

場 所：生涯学習総合センター3階研修室5・6

出席者

委員 8名出席

事務局職員：生涯学習総合センター所長、会津図書館長、副主幹、主査、主任主事

1. 開 会

2. 挨拶

会津図書館長

会津図書館協議会委員長

3. 議 事

- ・委員長を議長とし、進行

(1) 平成30年度後期事業実施状況について

※事務局より説明

別添資料参照

<質疑応答>

議 長：おはなしのもりは会津大学短期大学部の学生による事業だが、委員から何かあるか。

委 員：幼児教育学科ができて技術を学ぶ面もあるが、積極的に図書館を活用したり、経験したことを学校に持ち帰り、市民の方に繋げるといった役割もあると思う。（「おはなしのもり」を）定例化するという流れで、（図書館との）繋がりを深めたい。

事務局：来年度は、月2回の定期開催というお話しがあり、日程は第3土曜日と第4水曜日に活動していただく。

議 長：活動の様子をお話してください。

事務局：定期開催が始まったばかりで、まだこの日に（「おはなしのもり」が）あるという認識は利用者へまだ浸透していないが、館内でチラシを配布し、楽しみに来館する利用者もいる。今後は固定客を増やすため、広報に努める。

議 長：利用者や学生にとっても、とてもいい機会だと思うので、広報に努めて欲しい。

事務局：夏休み期間から（「おはなしのもり」を）実験的にやってみて、絵本の読み聞かせと共に手遊びやリズム遊びなどを実施し、赤ちゃんや一緒に来ている3、4歳の子どもさんも一緒に楽しんでいる。若い学生が読み聞かせをすることで、年齢的に近い保護者が親近感を持って、「自宅でも手遊びやリズム遊びをするとういのかな。」という声があり、学生の皆さんに協力していただいた成果が出ている。来年度は定期開催していただくことで、より広報に努め、多くの方に読みきかせの大切さを伝えたい。

議 長：第4水曜日は授業の一環なのか。

委 員：授業の中の実習の一つとして取り組んでいく。

議 長：平日に開催していただくのは嬉しい。

(2) 平成31年度当初予算について

(3) 平成31年度事業実施計画（案）について

※事務局よりパワーポイントを使用し、説明

委 員：「はじめての古文書」は初心者向けで、受講者は上を目指したくなる。今年度の「古文書講座」は定員が30名とあるが、定員オーバーではなかったのか。

- 事務局：定員オーバーではなかったと思うが、毎年開催しており、受講回数が多い申込者については、ご遠慮いただくこともある。
- 委員：「古文書講座」の定員が30名と少ないので、福島県立博物館の古文書講座や古文書愛好会に参加する人もいるが、そちらも定員があり、何か救済措置を設けてもらいたい。定員を増やして欲しいという要望があれば、ぜひ枠を広げて欲しい。
- 事務局：「古文書講座」は大変人気がある講座で、初級から中級者向けの内容のため、初心者がついていけないという意見があり、初心者向けの「はじめての古文書」を始めた。来年度は今年度と同じ定員で開催するが、今後は受講者の意見・要望を踏まえ、関係機関と協議しながら検討していく。今年度「古文書講座」募集から講座終了までの期間、一般図書フロア内に古文書を学ぶ人のための書籍を集めたミニ展示コーナーを設置した。来年度も同じく展示コーナーを設置し、利用者への広報に努める。
- 委員：図書館に（古文書関連図書を集めた）特別コーナーがあるとお伝えしたい。
- 議長：古文書のコーナーを設置していたとは知らなかった。もっと広報して欲しい。読書週間行事「本の夜会」で、中高生の参加は保護者同伴とあるが、高校生がイベントに保護者同伴で参加するのは疑問だ。
- 委員：保護者同伴でイベントに参加する高校生は少ないと思う。「本の夜会」に中高生が参加した実績はあるのか。
- 事務局：今年度実施した際に10代の参加は無かった。昨年度実施した際は、問い合わせがあったが、実際の参加は無かった。今年度の参加者の年代は20代が1名、40代が3名、50代が4名、60代が7名、70代以上が3名だった。
- 議長：「本の夜会」の終了時間は午後8時で、高校生にとってはそんなに危険な時間ではない。保護者同伴で済ませてしまうのではなく、中高生が参加しやすいように考えて欲しい。
- 事務局：中学生は保護者同伴のままでも、高校生など10代が参加しやすいように検討する。
- 委員：「遠藤恵也図書購入基金積立金」の残高はいくらか。
- 事務局：遠藤恵也氏から1千万円の寄附を受け、それを積立し、利息で平成22年度まで図書の購入をしてきたが、金利が下がったため、現在は積立のみしている。現在の残高は、10,013,914円である。
- 委員：9月16日に「会津ビブリオバトル」を計画しているが、福島県教育委員会から福島県大会の開催日時の連絡はあったのか。
- 事務局：まだ連絡はない。
- 議長：昨年の福島県ビブリオバトル会津地区予選の開催日はいつか。
- 事務局：9月29日に開催した。県から連絡は来ていないが、今年度同様だろうというお話があり、福島県大会地区予選の前に「会津ビブリオバトル」を開催し、練習も兼ねて参加できるよう日程を調整した。
- 議長：「会津ビブリオバトル」と福島県大会の両方に参加できるのか。
- 事務局：両方に参加できる。ちなみに、中高生の貸出冊数が伸びており、昨年度に比べ1.5倍に増えている。特に会津ビブリオバトル参加者や中高生の図書委員おすすめ本の展示を行うと、ほとんど貸出され、中高生向けのイベントを行う大切さを感じる。
- 議長：「冬のおはなし会」と「春のおはなし会」の終了時間が違うのはなぜか。
- 委員：両方参加しなかったため、状況がよく分からない。
- 事務局：どちらも同じ終了時間を予定していたが、今年度の「冬のおはなし会」では、折り紙を作る時間があり少し時間がかかった。毎回同じプログラムではなく、内容の違いで終了する時間が前後する。
- 議長：会によって時間を変えているということではないのか。
- 事務局：特に変えていない。「おはなしのへや」の皆さんと今後も内容等検討していきたい。

(4) 第二次子ども読書活動推進計画 平成30年度実施報告について

※事務局より説明

議長：p 4 社会福祉協議会へ読書活動支援ボランティア確保の要請を行ったとあるが、どうなったのか。

委員：社会福祉協議会のボランティアセンターに依頼があった。4か月児健診会場は、北会津保健センターで社会福祉協議会が指定管理を受けて運営しており、昨年11月に一部を改修し、子ども達の遊び場を設けた。地元の方4名がボランティアとして活動している。ボランティア学園（以下：学園）事業は、来年度も約100名の申込みがあった。ボランティアに関することがあれば、連携させていただきたい。

事務局：主にブックスタート事業と赤ちゃんおはなし会で活動するボランティアを募集しているが、「読み聞かせ講座」受講者だけでは人数が増えず、ボランティアセンターへ依頼した。すぐに応募があった訳ではないが、将来的には学園受講者が、読書活動支援ボランティアとして活動していただければと思う。

委員：地元でボランティア活動する方が少しずつ増えており、活躍する場を広げたい。

議長：ボランティアを希望する人も、読書活動支援ボランティアにつながる「読み聞かせ講座」のことを知らないのではないか。そこをつなげて欲しい。実際に活動するボランティアを早く見つけて欲しい。

委員：学園内で「読み聞かせ講座」の募集チラシを配布し、1名受講したと聞いている。学園受講生のべ70名が卒業したが、実際のボランティア活動の場につなげることが課題である。学園の卒業生とボランティア活動団体や市内の福祉施設など、定期的に交流する場を設けたいので、図書館の方もぜひ参加いただきたい。

事務局：人材育成が社会教育の中でも大きな課題となっている。読書活動支援ボランティア以外にも、公民館で放課後こども教室、生涯学習支援者など様々なボランティアを募集している。学園卒業生の方も、社会教育の分野に興味があればぜひご協力いただきたい。

委員：p 9「園だより」で絵本の大切さなどをお知らせしている。毎週水曜日に絵本を貸し出しており、絵本の読み聞かせをする保護者も増えている。季節のおはなし会のチラシを毎回いただいており、園の行事と重なって参加できない時もあるが、楽しみにしている子どももいる。p 6北公民館と南公民館で実施している放課後こども教室での読み聞かせは、そのこどもクラブの児童が対象なのか。

事務局：こどもクラブとは別で、公民館の事業として週1回放課後に公民館や学校で体験活動をしており、その中の一つとして読み聞かせを実施しているのが、北公民館と南公民館である。

議長：園で水曜日に絵本を借りて次の週の火曜日に返却するのか。

委員：1週間はあつという間で、また同じ本を借りる子どももいる。

委員：p 10 学校図書館支援員（以下：支援員）1人で5校担当しており、週1回学校に来ている。古い図書を除籍し整理が進んでいる学校とそうでない学校に行くのでは支援員の負担に差がある。人件費の関係もあると思うが、少しずつでも1校につき1人の支援員を配置して欲しい。ボランティアがいない学校もあり、支援員1人で多くの業務をこなさなければならない。ボランティアと支援員が両輪で学校図書室を整備していければ良い。

事務局：支援員は学校教育課が所管課で、図書館には権限が無いが、校長会等で支援員が入ったことで子どもの読書の意識が高まったという話を聞いており、学校としても支援員を配置して欲しいという思いはあるようだ。来年度予算はエアコンの整備が優先されるが、一方で学校教育課と支援員、図書館との連絡会があり、より良い方向になるように打合せをしていきたい。支援員については教育委員会全体の課題ということで取り上げていきたい。

議長：学校図書館ボランティアがいる学校数は増えてるのか。

事務局：今年度の数は昨年度と同様で、年度内にボランティアが入るかどうかは未定だが小学校2校、中学校2校で、来年度に向けて増える見込みがあると読書活動推進計画担当者連絡会の際に報告があった。

委員：働いている保護者が増えており、ボランティア活動するのが難しい。学校の中から立ち上がらない場合は、社会福祉協議会と連携して、上手くコーディネートすれば学校も助かるのではないかと。

事務局：学校教育課に対する支援の1つとして地域学校協働本部事業があり、現在公民館を中心に展開している。2年前に湊地区、今年度は大戸地区に本部を立ち上げ、地域の方にコーディネーターを依頼し、保護者ではなく地域の方が学校でボランティア活動できる人材を、学校の求めに応じて調整し、活動する取り組みである。湊小学校では取り組みの1つとして、公民館の広報等を使って地域のボランティアを募り、湊公民館が中心となって月1回学校図書室で活動している。コミュニティスクールといって、地域と一体となった学校運営を図っていく取り組みを進めており、地域の方が学校図書館でボランティア活動できるような仕組みを作っていきたい。学校図書室は課題の多い場所だと思うので、学校と地域をつなげる活動を進めるにあたり、ご助言やご協力をいただきたい。

議長：子育て世代は忙しい。余力のある地域の方は沢山いるのではないかと。

事務局：子どものためならばボランティア活動をしてみたい、また子どもと関わることで生きがいになるという高齢者もいらっしゃる。自主性が生まれる取り組みになるのではないかと。

(5) その他

平成31年9月30日で現委員の任期終了。

4. 閉 会